

滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会だより

発行／彦根市馬場一丁目1番1号 滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会 発行責任者／坂野高志

URL: <https://www.econ.shiga-u.ac.jp/supporters.html>

目次	経済学部・経済学研究科の教育研究について	
	経済学部長・・・・・・・・・・	1～2
	データサイエンス学部・大学院の近況について	
	データサイエンス学部長・・・・・・・・・・	3
次	学生活動だより・・・・・・・・・・	4～5

国際交流・・・・・・・・・・	6～7
ゼミナール紹介・・・・・・・・・・	8～9
資格取得等報奨制度・・・・・・・・・・	10
報奨金受給者の声・・・・・・・・・・	11

経済学部・経済学研究科の 教育研究について

経済学部長 能登真規子



能登学部長

滋賀大学経済学部の教育・研究活動に、平素より深いご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

今回は、本学部における教育研究の現状と今後の展望を、最近の社会や政策動向とあわせてご報告いたします。

○専門を選ぶ、深める

2023（令和5）年度の改組により、学科を「総合経済学科」の1学科体制としました。学生の専門分野は、出願時の志望や入試成績によってではなく、2年次秋学期に提出する専攻希望届により決定しま

す。入学後の1年半で幅広い科目を履修しながら、学生自身が主体的に、自らの関心や将来の進路に照らして「経済専攻」「経営専攻」「社会システム専攻」のいずれかを選択します。

カリキュラム・ポリシーの中核となる「三層構造のカリキュラム」は、改組後も基本的な体系を維持しています。基礎科目として「現代経済学基礎」を全員必修とし、さらに各自の関心に応じて6科目以上を履修するコア科目群を設けています。

コア科目には、「ミクロ経済学A・B」「マクロ経済学A・B」「統計学A・B」「政治経済学」「社会経済史」「経営学」「簿記会計」「法学」「論理学」の12科目が含まれます。これらは、可能な限り2年次までに履修し、その後の専門科目における発展的学修の基礎とすることが望まれます。卒業には、専門教育科目群から96単位の修得が必要です。なお、学生がコア科目を6科目より多く履修することや、「ミクロ経済学A・B」「マクロ経済学A・B」「統計学A・B」の全てを履修することを奨励するため、成績優秀者表彰制度に、コアAB科目を対象

とした部門を新たに追加しました。

演習科目である「専門演習（ゼミ）」は、本学部の大きな特色です。多彩な専門分野にわたるゼミが開講されており、「多様な人々との協働に関わる科目」「自主的課題発見・解決能力を育成する科目」としての機能を果たしています。



学内ゼミナール大会の様子

○最近の社会・政策動向への対応

2022（令和4）年には、文部科学省令による「大学設置基準」が改正されました。この基準はもともと大学設立のための最低基準を定め

るものでしたが、現在では、各大学が自律的に教育課程を設計し、その質を社会に対して説明し保証するための、大学教育における「憲法」のような存在となっています。

滋賀大学経済学部でも、その理念に沿って以下の取組を進めています。

(1)学修者本位の教育：シラバスに学修到達目標を明記し、学生が「何を、どのように学び、どのような成果を得たか（アウトカム）」を軸に授業設計・評価・支援を行っています。

(2)質保証：自己点検・外部評価・情報公開を通じて、授与する学位の水準を社会的に保証し、教育の質を継続的に改善しています。年度末の自己点検評価報告会では、後援会役員の皆様にもご協力いただいています。

(3)社会に開かれた教育：社会・地域・産業界と相互に連携する教育を推進しています。「プロジェクトA」等、PBL (Project Based Learning) を実践する20名程度までの授業を複数開講しており、実務家を非

常勤講師やゲストスピーカーとして迎えることも多くあります。他にも、地元の士業等の方々にリレー形式で講義を担当していただく「フアインナンス特殊講義」（不動産鑑定士や「金融経済論特殊講義」（生命保険協会）、「現在の経済」（連合滋賀）、「法システム論特殊講義」（税理士）、本学卒業生も登壇される「リーダーシップ論」「キャリアデザイン論」、産学公連携推進機構も関わっている「リベラルアーツ総合探究」「地域課題プロジェクト」等、バリエーションに富んでいます。ゼミ活動でも、地域や企業の課題解決やデータ分析に取り組む学生が増えています。また、経済学部の学生・教員がデータサイエンス学部の学生・教員と共に企業と連携する例も見られるようになっていきます。



（集中講義の「プロジェクトA」では、3日間にわたり、製造業12社に勤務されているゲスト講師12名の講義を聴き、社会課題を解決する新事業創出をテーマに共に議論し、報告を行いました。）

○今後の展望

経済学部では、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」（リテラシーレベル、応用基礎レベル）に対応した教育を推進しています。今後は、こ

れをさらに高度化し、社会の期待にも応えながら、データサイエンス学部との連携を一層強化してまいります。学生が、知識を活用して変化に柔軟に対応し、データを的確に読み解き、批判的かつ倫理的に思考できる力を養うことを目指しています。

引き続き、教職員一同、教育内容と体制の一層の充実に努め、滋賀大学経済学部ならではの教育、「国際的な視野をもち、環境に配慮しつつ地域社会にも貢献できる、個性ある専門職業人（グローバル・スペシャリスト）」の養成を使命として取り組んでまいります。

《参考》 文部科学省「令和4年度大学設置基準等の改正について」

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daijaku/04052801/index_00001.htm

データサイエンス学部・ 大学院の近況について

データサイエンス学部長 市川 治



市川学部長

「ホワイ
トカラーの
超生産性の
時代が来
る！」最
近、私は本
気でそう考
えるようになりました。もちろん、
その背景にあるのは生成AIの登場
です。

例えば、手持ちの資料をアップ
ロードして「説明資料を作って」と
依頼すれば、スライドとナレーショ
ン音声付きの動画を自動で生成して
くれます。講義資料をアップロード
すれば、確認問題付きの自習教材が
自動で作られます。スピーチ原稿
も、要点を指示するだけで完成され
た文体で出力されます。さらに、音
楽や画像の生成も自在です。

最近では、生成AIの裏側で
Pythonプログラムを実行できるよう
になり、データサイエンス学部の
1・2年生が行っているようなデー
タ分析作業も、AIに任せることが
可能となってきました。

超生産性の時代では、少人数で多
くの仕事をこなせるようになりま
す。その中で「仕事を失う側」にな
らないためには、自らが超生産性を
発揮できる人間になるしかありませ
ん。加えて、生成AIの技術を理解
し、社会に適切にインテグレイショ
ン（統合）できるスキルを持つこと
が重要です。これが、データサイエ
ンス学部が育てる新しい人材像であ
ると考えています。

●学部の教育研究

本年度4月から、定員が従来の1
00名から150名へと拡大した新
しい学年がスタートしました。現在
のところ、順調に推移しています。
ただし、定員増に伴う入試制度の変
更により、高校で数学Ⅱ・Ⅲを履修
していない新入生が一部見られるよ
うになりました。そのため、数学を
補う「数学サポート」を補習塾的に
開講し、学習支援を行っています。

新たな取り組みとして、まず「気
象データアナリスト育成講座」を開
講しました。これは一般の社会人も
履修可能なコースであり、修了時に
は気象庁が認定する講座の修了を滋
賀大学が証明します。本講座は既存
の学部講義の組み合わせで構成され
ているため、在学生は追加の履修料
を支払うことなく、社会人と同様の
修了証明を得ることができます。

次に「ゲームプログラミング入
門」を新設しました。若い世代に人

気の高い分野であり、学生の知的好
奇心を刺激する狙いがあります。今
後も、学生の興味関心に応える形で
カリキュラムの更新を進めてまいり
ます。

●大学院の教育研究

データサイエンス研究科では、今
年度より博士前期課程（修士課程）
の定員を30名増やし、82名の入
学者を迎えました。博士後期課程で
も、定員3名に対し6名が入学し、
大学院全体が活気づいています。入
学者のうち23名は企業等からの派
遣社会人であり、一般入試による社
会人学生も複数名在籍しています。
結果として、全体の約3分の1が社
会人学生という構成になっていま
す。

一般学生と社会人学生が同じ場で
学ぶことは、互いにとつて大きな刺
激となっています。社会人学生が持
つ実務経験や課題意識は、理論を学
ぶ学生に現実的な視点を与え、一方
で若い学生の柔軟な発想や新しい知
識は、社会人学生に新たな気づきを
もたらします。多様な背景をもつ学
生が共に議論し、協働して研究を進
める環境は、本研究科教育の大きな
強みとなっています。

現在、本学では新しい教育研究拠
点「データサイエンスみらい創造
館」を建設中であり、2026年秋
の完成を予定しています。それまで
はやや手狭な環境での活動となりま

すが、教員と学生が一体となって工
夫を重ね、より充実した教育研究の
場を築いてまいります。

●入試関係

入学試験は、6月の3年次編入試
験を皮切りに、9月・10月の総合型
選抜ⅠおよびⅡへと続きます。今
年度の総合型選抜Ⅰ（一般枠・女性
枠）では志願者数が合計105名と
なり、昨年度比で約25%の増加と
なりました。

年明けの2月下旬から3月上旬に
かけては、一般入試（前期・後期試
験）が実施されます。昨年度に初め
て導入した後期試験の面接型では、
大変優秀な学生が入学してくれまし
た。また、総合型選抜による入学者
の春学期終了時点での成績（GPA）
分布は、一般入試入学者と遜色
ない水準であるとの報告も受けてい
ます。

出身地域は西日本、特に近畿・東
海が中心ですが、関東や北海道など
遠方からの入学者も一定数見られま
す。今後も高校生やその保護者への
情報発信を工夫し、意欲的な受験生
の確保に努めてまいります。

【執筆協力：松井副学部長、佐藤
（正）副学部長、佐藤（健一）副学
部長、飯山研究科長】

* 校閲にChatGPT-Eduを使用しまし
た。

学生活動だより

滋賀大学学長賞

7月25日(金)、彦根キャンパスにおいて、令和7年度第1回滋賀大学学長賞授与式を2件の受賞者の出席のもと挙行了しました。

授与式では、学生支援課より選考結果の概要について説明があり、竹村学長より今回受賞の学生に表彰状と盾、副賞が授与されました。授与の後、学長から祝辞があり、日頃努力を重ね大きな成果を上げたことに対して労いの言葉がかけられました。受賞者からそれぞれ謝辞が述べられました。授与式後は、学長と受賞者が懇談する場が設けられ、受賞者のうち澤木聖子ゼミCチームのメンバーからは日本学生経済ゼミナールインター大会に参加したこと、古本さんからは日本将棋連盟主催の中部地区春季個人戦で優勝したことについて説明があり、和やかに懇談が行われました。

受賞理由は以下のとおり

○経済学部 澤木聖子ゼミCチーム

(4年 西山 武我・服部 夏希・

福江 晏) (団体)

〔授賞理由〕

・第70回日本学生経済ゼミナールインター大会決勝大会第二位

○データサイエンス学部

2年 古本 雄士 (個人)

〔授賞理由〕

・日本将棋連盟主催令和七年度中部地区春季個人戦 優勝



竹村学長と記念撮影



竹村学長と懇談

滋和戦

6月21日(土)、22日(日)

に、第58回滋賀・和歌山大学学長杯争奪総合定期戦が開催されました。この定期戦は昭和41年から続く、本学と和歌山大学の伝統の定期戦であり、体育会系部活が中心となり様々な競技が行われます。

今年度は和歌山大学が当番となり、選手となる学生たちは和歌山大学及びその周辺に赴き、二日間多くの白熱した戦いを繰り広げました。

試合の中で学生たちは、集中力

を高めた真剣な表情や、大きな声でチームを鼓舞する姿、部員同士で声を掛け合う姿、真剣勝負の中でも笑顔を絶やさない姿など、普段のキャンパス内ではなかなか見られない一面を見せてくれました。

選手団全員が懸命に頑張ってくれましたが、最終的には和歌山大学が14勝7敗7分で勝利し、9年連続の総合優勝を飾りました。和歌山大学の皆様、おめでとうございます。

和歌山大学の壁は高いですが、必ず超えられると信じています。一日を大切に、小さな一歩を積み重ねて、来年こそは勝利できるように頑張っていきたいと思います。

和歌山大学の皆様におかれましては、交流戦の開催にむけた準備等、本当にありがとうございます。来年は滋賀大学が当番校となりますが、和歌山大学の皆様が滋賀大学にお越しになるのを楽しみにしております。

成績表

	滋賀大学		和歌山大学	
	勝負	得点	勝負	得点
合気道	△	1	△	1
アメリカンフットボール	×	0	○	2
空手道(男子)	×	0	○	2
空手道(女子)	×	0	○	2
弓道(男子)	○	2	×	0
弓道(女子)	×	0	○	2
剣道(男子)	○	2	×	0
剣道(女子)	×	0	○	2
硬式テニス(男子)	○	2	×	0
硬式テニス(女子)	×	0	○	2
硬式野球	×	0	○	2
サッカー	×	0	○	2
柔道	×	0	○	2
準硬式野球	○	2	×	0
少林寺拳法	△	1	△	1
水泳	×	0	○	2
ソフトテニス(男子)	○	2	×	0
ソフトテニス(女子)	×	0	○	2
卓球(男子)	△	1	△	1
卓球(女子)	△	1	△	1
バスケットボール(男子)	△	1	△	1
バスケットボール(女子)	×	0	○	2
バドミントン	○	2	×	0
バレーボール(男子)	△	1	△	1
バレーボール(女子)	○	2	×	0
ハンドボール(男子)	×	0	○	2
ラグビー	△	1	△	1
陸上競技	×	0	○	2
総合	7勝 14負 7分	21	14勝 7負 7分	35

<注意> ○：勝=2点 ×：負=0点 △：引分け=1点

滋大祭2025「柳緑花紅」

10月25日(土)・26日(日)の2日間、彦根キャンパスにて「滋大祭2025」を開催しました。滋大祭は今年で第59回を迎える伝統ある学園祭です。

あいにく雨に見舞われる時間帯もありましたが、ステージイベントを講堂に変更するなど一部スケジュールを調整しながら開催しました。そうした状況の中でも、実行委員のメンバーが臨機応変に対応し、ご来場の皆さまのご理解とご協力をいただいたことで、無事にすべての企画を実施することができました。

ステージイベントはグラウンドや講堂で行われました。さまざまな企画の中でも特に盛り上がったのは、今年初開催の『Theマツチョマン in 滋賀大』です。滋賀大学で一番「マツチョ」な漢を決める大会で、筋肉自慢たちが熱い戦いを繰り広げました。

各団体による模擬店も多数出店されました。なかでも注目を集めたのは、卓球部が運営する『卓球飯店』。チャイナドレスを着た男性メンバーが片言の日本語で来場者を楽しませ、中華料理を振る舞いました。「謝謝(シェイシェイ)！」「好吃(ハオチー)！」「好喝(ハオフー)！」の掛け声が飛び交い、会場は大いに盛り上

がりました。

教室などで行われた展示も見どころ満載でした。癒し系のボカロ展示や完成度の高い鉄道模型、日本文化を体験できるお茶席など、個性豊かな企画が並びました。また、『日本文化でジェンダーを考える』展示や『キャリアの達人セミナー』など、大学らしい学びの要素を取り入れた企画も多くの来場者の関心を集めました。

そして、昨年度に続き、初日の最後を飾った打ち上げ花火は今回のハイライトとなりました。夜空を彩る花火は迫力と美しさを兼ね備え、多くの方々を魅了しました。今後も滋大祭の新たな伝統として続いていくことでしょう。

滋大祭実行委員会をはじめ、各学生団体の皆さんの活躍、地域の皆さまのご協力により、今年も盛大かつ安全に開催することができました。また、雨の中にもかかわらず多くの方にご来場いただき、心より感謝申し上げます。

関係者の皆さま、ご来場くださった皆さま、本当にありがとうございました。



ウェルカムゲート



滋大祭実行委員会

国際交流

シリコンバレー研修

2025年8月4日～15日、シリコンバレーの中心に位置しているサンノゼ州立大学において「2025 Silicon Valley Innovation & Startup Program」を実施しました。この研修には、滋賀大学の経済学部学生9名、DS学部学生3名、経済学研究科大学院生6名、DS研究科大学院生2名の20名が参加し、イノベーションやスタートアップ、AI、マーケティングなどについて学びました。

研修は、サンノゼ州立大学のSilicon Valley Center of Operations and Technology Managementで実施され、AIやアントレプレナーシップなどの専門家、シリコンバレーで起業、経営しているCEOなどが講師として学生を指導しました。参加学生は6チームに分かれて商品開発と起業を目指したプロジェクトに取り組みました。最終日には、イノベーター

ブな商品やサービスをチーム全員で協力して作り、それを商品化するというプロジェクトをプレゼンテーションしました。起業と資金調達を想定したプレゼンテーションは、今後社会で活躍する学生にとってはかけがえのない有益な経験でした。

また、シリコンバレーの企業文化を理解するためのカンパニーツアーを行い、Intel、Google、Appleなどの企業を訪問して、これらの設立背景や成長過程などについて学びました。サンフランシスコ観光では、Golden Gate Bridge、De Young博物館、美術館などを観光しました。自由時間である土曜日と日曜日には、スタンフォード大学を訪問したり、MLBを観戦したり、デイズニールンドを楽しんだりしました。

プログラムの内容は、シリコンバレーならではのものが多く、学生にとって非常に有益なものでした。参加学生からは社会人として欠かせない知識と経験を得ることができたと、非常に高い評価と満足度を得ました。



企業訪問



授業

タイ・スタディツアー

データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター

センター長 深谷良治

2025年9月1日(月)から10日(水)までの10日間、タイにてスタディツアー研修を実施いたしました。本研修は2023年以来2年ぶりの開催で、学部生7名、大学院生3名が参加しました。現地大学や企業での学びに加え、OBの皆さまとの交流を通じて、データサイエンス分野における国際的な視野を養うことを目的としたものです。

初日はバンコク到着後、泰日工業大学(TNI)の教職員・学生の皆さまから温かい歓迎を受け、和やかな雰囲気の中で研修の幕が開きました。TNIでは「ものづくり教育」に基づく実践的な手を動かすカリキュラムを学びました。キャンパスツアーや合同ワークショップを通じて現地学生と交流する中で、「タイの学生がテクノロジー領域に向ける熱量の高さを強く感じた。皆が高い学習意欲を持っており、大きな刺激を受けた」との感想も寄せられました。4日目に訪れたアユタヤ遺跡群では、歴史的・文化的背景を深く理

解し、研修全体が「知と文化の融合」となる時間となりました。

5日にはMTT Data (Thailand) を訪問し、機械学習やビジネス分析ツールを用いた実習を体験しました。AIによる自動化やデータ分析の可視化に直接触れることで、デジタル技術を実社会に応用する具体的なイメージを得ることができました。8日にはCPグループを訪問し、小売店舗における無人レジやダイナミックプライスの導入事例を学んだほか、研究拠点True Digital Parkではスタートアップ支援やDX関連の先進的な取組を見学しました。学生からは「CPグループは、産業応用や収益性が確認できれば新規分野にも積極的に支援しており、日本以上に挑戦的な企業を後押しする体制が整っていると感じた」との声もありました。実際のDX現場を目にしたことで、「自分もこのような環境で働きたい」という思いが芽生え、机上の勉強では得られない強いモチベーションにつながったようです。

9日にはモンクット王立ラカバン工科大学(KMITL)を訪問。データサイエンスやビジネスアナリティクス教育の現状を学び、学生や教員との活発な意見交換を行いました。

特筆すべきは、9月2日に開催された在タイ滋賀大学OB会(陵水会バンコク支部)の皆さまとの懇談会です。現地でご活躍される先輩方から、アジアでビジネスを切り拓くうえでの苦労や心構えを伺い、学生たちは大きな学びを得ました。ある学生は「遠い異国でビジネスをする上で、利害関係に縛られない同窓のつながりがいかに貴重かを実感した。損得勘定を超えて先輩後輩として喜びも困難も分かち合える存在がタイにもいることに、心強さを覚えた」と語りました。また別の学生は「ビジネスの成功には『泥臭い行動』を惜しまない姿勢が欠かせないことを再認識した。誰も持っていない情報を手に入れることが、ビジネス



C P

スの鍵になるという言葉が深く心に残った」と感想を述べており、先輩方の生の言葉が将来を考える大きな糧となったことが伝わってきます。



KMITL

今回の研修を通じ、参加学生は専門知識を国際的な場面で応用する実践的な学びに加え、タイの学生の情熱や現地企業の挑戦的な取組、そしてOBの皆さまの温かい支えの尊さを実感しました。これらの経験は、

今後のキャリア形成においてかけがえのない財産となることでしょう。最後になりましたが、本研修の実現にあたり多大なるご協力を賜りました後援会、陵水会の皆さま、彦根商工会議所、ならびに現地大学・企業関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。OBの皆さまのお力添えがあつてこそ、学生たちにこのような貴重な機会を届けることができました。今後とも変わらぬご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



OB懇親会

ゼミナール紹介

通常ゼミナール、略して「ゼミ」と呼んでいる授業は、経済学部は「専門演習Ⅰ～Ⅳ」、データサイエンス学部は「実践価値創造演習Ⅰ・Ⅱ」「上級実践価値創造卒業演習Ⅰ・Ⅱ」といった一連の4つの授業科目を意味し、これらの科目は、2回生の後半に各学生の選択希望に基づき、受講クラスが決定されます。3回生春学期から授業が始まり、以後継続して4回生秋学期までの4セメスター連続して履修することになります。

ゼミは、2年間、同一のクラスで同一の教員が担当し、経済学部では、担当教員の専門分野の学問的内容について、受講生の学習・研究を指導することになっています。データサイエンス学部では、企業等と連携し、課題解決や価値創造を試みるために収集したデータのチェックを行い、データを分析し、得られた結果を考察し、問題解決を提案することとを目的としています。

ゼミは少人数教育の授業科目ですが、クラスでの研究報告、発表を担当することで主体的な学力とプレゼン能力が養われます。また、クラス

内での議論や共同研究、報告の準備作業、ゼミ生間の日常の交流などを通じて、論理面だけでなく総合的なコミュニケーション能力や人間関係を形成する力も培われます。それゆえ、ゼミは大学4年間の後半に配置されている主要な授業科目であり、専門教育としてだけでなく、ゼミ担当教員が学生生活や進路の相談、指導を行うことで、学生指導の面からも総合的に重要な役割を果たしています。

福浦ゼミナール

経済学部教授 福浦 厚子

日ごろは滋賀大学の支援のためにご尽力いただき、ありがとうございます。私が担当している文化人類学ゼミを紹介します。ここでは植民地主義やエスニシティなど人類学の基本事項を学んだうえで、ジェンダーや格差、貧困、紛争等の現実的課題について文化人類学的な視点から考えるためいくつか本を読んで議論をしています。近年卒業した学生の卒業論文を短くまとめあげますと「宗教二世問題」「災害伝承の現状と減災」「アイヌの魚皮衣」など多種多様です。しかしいずれもそれらは資料だけでなく、可能な限り関連する人たちに聞き取りをして、一人ひとりの語りの機微に触れてもら

い、それを論文として記述する際に加味できるよう考えてもらっています。

現在4回生は卒業論文作成に取り組んでいます。それについて少し紹介します。中川さんは、日本の医療・介護現場における「笑い」の効用について検討しています。医療現場にはクリニックラウンやホスピタルクラウンとよばれる笑ったり和んだりする機会を入院中の子どもたちに届ける専門家がいます。子どもたちは検査等慣れない状況のためうまく対応できる場合ばかりではありません。時にはクリニックラウンといった人たちが気持ちを切り替える機会を作ってくれます。その活動は、病院での治療と並んで患者を「笑い」によってケアしており、その現状と課題を調べています。山羽さんは、廃校となった小学校に着目し校舎の活用を通して、利用者が気持ちの安楽を獲得し、他者とのつながりをつくることのできる居場所となっていることの意義を明らかにしようとしています。米田さんは、中央アジアにおけるエスニック・アイデンティティの構築の過程の検討を通して現代日本の移民問題を考えています。日本へくる移民や一時滞在の人たちと私たちがどう相互に歩み寄ることができるのか。それを考えることは、社会のなかで自分らしく生きる

ための倫理的基盤としてあるという点を大前提に取り組んでいます。卒業論文のテーマは身近な疑問や違和感を発端としています。それをもとに目標を設定し課題解決を見据えており、彼らと意見交換をするといつも新しい発見があります。



ゼミ写真

また今年度は専門演習Ⅱ（3回生）の学生とともに大阪・吹田にある国立民族学博物館へ見学に行きます。ここは世界各地で文化人類学者が集めてきた資料が展示されており、常設展示をみるだけで世界一周ができるよう工夫されています。最後に学部ゼミ生ではありませんが私



呉さん（ソウル大にて）

が主査として担当する大学院修士課程の留学生二人を紹介します。彼らも学部ゼミに参加したことがありません。侯さんは在日中国人留学生と信仰について研究しています。呉さんは訪日観光客と日本製化粧品の関係について研究し、2025年7月にソウル大学で開催された国際学会でポスター発表をしました。どのゼミ生もみんな熱心に取り組んでいます。

松井ゼミナール

データサイエンス学部教授 松井 秀俊 データから価値を 見出すための分析方法の開発

松井ゼミでは、統計・機械学習のモデリング手法についてその方法論の学習や、プログラミングによる実際のデータ分析の経験を通して、新たな課題を解決するための方法について研究しています。AI技術の進歩が著しい昨今、大規模なデータから精度良い予測や情報圧縮を行う方法が急速に発展してきました。しかし、AI技術の多くはいわゆるブラックボックスモデルであるため、データを入力することで出力される結果について解釈することが困難なことが多いです。そのため、自身が抱えている少量のデータを分析した場合や、分析結果からデータの傾向について解釈を行いたい場合、これらのAI技術では十分な出力が得られないことがしばしばあります。そのため、データの背後に潜む関係性を明らかにし、そこから価値を見出すための多変量解析や機械学習の方法とその使い方を身に着けます。これにより、自分がどのような分析をし、何故このような結果が得られたのかを説明できる人を育てます。

配属当初は統計学や機械学習についての書籍を輪読形式で読み進め、統計・機械学習手法についての理解を進めます。加えて、これらの方法を使えるようにするため、RやPythonによる実装方法についても学びます。輪読を終えるタイミングで、卒業研究のためにどのような分野のどのようなデータを分析したいかを学生に検討してもらい、その内容に応じた卒業研究のテーマを決め、研究を進めていきます。

卒業研究に用いるデータは、webサイト等で公開されているデータもあれば、連携している企業や大学・研究機関等からいただくデータの場合もあります。特に後者の場合は、提供頂いた方々との打ち合わせの中で学生に分析報告をしてもらい、得られたフィードバックを通じて改善するという経験を積んでいきます。

大学ではさらに発展的な統計・機械学習手法について、論文を読みながら学習していきます。その知識や技術を活かして新たな方法を開発し、実際のデータ分析を通してその有効性を検証します。得られた研究成果は学会などで報告し、そのフィードバックを受けて修士論文執筆へと繋がります。

これまでのゼミ活動で、学生はさまざまな種類のデータ分析に携わってききました。たとえば、研究機関から頂いた遺伝子のデータや、他大学から頂いたマラソンランナーの走行時の姿勢のデータ、製造業で計測された製品製造時に測定される波形のデータ、小売店の売り上げデータなど多種多様です。このように松井ゼミでは、特定の分野によらず汎用的に利用できる分析手法の開発を進めています。



ゼミの様子

資格取得等報奨制度

「後援会資格取得等報奨制度」は、スポーツ・文化活動、勉学等で顕著な功績を残した個人、若しくは団体を報奨することにより、学生の日頃の勉学等を支援し、資質の向上に資することを目的として、平成26年10月に創設され、その後、データサイエンス学部の設置等に伴い、対象試験等の一部を改正しています。

令和6年度下半期申請分（令和6年10月から令和7年3月受理分）については、下表の通り、62件に対して給付されました。

学生からはステップアップのための資金にしたいとの頼もしい声が聞かれ、今後も、多くの学生諸君から応募していただけるよう願っています。

また、学生諸君には、別途、学内においてお知らせしていますが、保護者の皆さまにおかれましても、ご覧いただきたい上で、お子様にお伝えいただきたく存じます。

今後、より良き制度に改善して行きたいと考えておりますので、会員の皆さまからも是非ともご意見等お寄せいただければ幸いです。

令和6年度下半期分 滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会資格取得等報奨金審査結果

令和6年10月～令和7年3月末日までの受理分 (令和7年7月役員会審査分)

分類	サポート対象事項	基準	報奨額 (円)	給付 件数	給付者氏名(敬称略) (回生は申請時)
資格・認定試験	1. 日商簿記検定試験	「1級」合格者	70,000	3	河野快 (経済学部3回生) 但馬百花 (経済学部3回生) 西村陸 (経済学部2回生)
	2. 税理士試験 (申請は、基準①、②のいずれか1回に限る。)	① 会計学に属する科目の中から、 いずれか1科目合格者	30,000	2	宮木翔馬 (経済学部4回生) 他1名
		2科目同時合格者	50,000	3	水野智貴 (経済学部4回生) 朝妻和奏 (経済学部3回生) 美濃十飛 (経済学部2回生)
		② 税法科目から、いずれか 1科目合格	40,000	0	
	3. 公認会計士試験	「短答式試験」合格者	50,000	4	中西優里菜 (経済学部4回生) 水田遥大 (経済学部4回生) 河野快 (経済学部3回生) 城大智 (経済学部3回生)
		「論文式試験」合格者	100,000	3	戸田美雪 (経済学部4回生) 山本祐正 (経済学部4回生) 浅見若菜 (経済学部4回生)
	4. 中小企業診断士	「2次試験」合格者	50,000	0	
	5. 証券アナリスト試験	「第1次レベル試験」合格者	30,000	2	田中亜周 (経済学部3回生) 他1名
		「第2次レベル試験」合格者	40,000	0	
	6. 応用情報技術者試験	合格者	30,000	0	
	7. 情報処理技術者資格(高度試験)	9区分から、いずれか 1科目合格者	50,000	0	
	8. 品質管理検定	「1級」合格者	50,000	0	
	9. 統計検定	「1級」の「統計数理」、「統計応用」 いずれか1科目合格者	50,000	0	
		「1級」 2科目目合格者	20,000	0	
		「準1級」合格者	30,000	16	杉山祐豊 (DS学部4回生) 出雲湧己 (DS学部3回生) 江上颯亮 (DS学部3回生) 春日一将 (DS学部3回生) 上村直矢 (DS学部3回生) 井齋友春 (DS学部2回生) 岡田大輝 (DS学部2回生) 郡司七緒 (DS学部2回生) 西井梓梧 (DS学部2回生) 野村実央 (DS学部2回生) 水谷旭陽 (DS学部2回生) 小林慶香 (大学院DS研究科2回生) 他4名
語学試験	10. TOEIC (公開テスト)	800点以上	30,000	16	砂田一郎 (経済学部4回生) 渡邊太陽 (経済学部4回生) 今田康仁 (経済学部4回生) 但馬百花 (経済学部3回生) 久保田智輝 (経済学部2回生) 畑井皓介 (経済学部2回生) 松原巧実 (経済学部2回生) 川田芽依 (DS学部4回生) 西智紀 (大学院DS研究科2回生) 他7名
		900点以上	50,000	8	橋本裕貴 (経済学部3回生) 栗本颯人 (経済学部3回生) 塩田雅幸 (経済学部3回生) 石田暉 (経済学部4回生) 中野歩華 (経済学部3回生) 黒川雄太 (経済学部3回生) 木田直歩 (経済学部3回生) 他1名
	11. 英語以外の外国語検定	韓国語能力試験(TOPIK) 4級以上	30,000	1	窪大翔 (経済学部3回生)
		DELE B1	30,000	1	新居さくら子 (経済学部4回生)
	12. 本学交換留学制度に基づく海外留学	アジア圏	40,000	0	
その他	13. その他	論文賞3件	80,000	1	戸簾隼人 (大学院DS研究科2回生)
		「第51回全日本大学ローイング選手権大会」女子ペア優勝	65,000	2	西村葉々花 (DS学部4回生) 鉢藤蓮 (経済学部3回生)
	合計 (振込手数料は除く)			62	

注1.) 給付者氏名については、氏名を公表することの承諾を得た学生の方のみ記載しています。
注2.) 英語以外の外国語検定に関しては申請のあったもののみ項目掲載しています。
注3.) TOEIC-IPは支給の対象外です。

報奨金受給者の声

『公認会計士短答式試験合格』

経済学部 4 回生 城 大智



私は公認会計士短答式試験に合格しました。

公認会計士短答式試験では、財務会計・管理会計・監査論・企業法の4科目を満遍なく学習する必要がありました。各科目間で多少のつながりはありませんでしたが、独立した学問としての学習が必須であり各科目の outcome に合わせた学習が必要でした。こうした幅広い学習範囲を理解し定着させるためには、いかに復習の間隔を狭められるかを追求しました。そのため、使用する教材の一つに絞る、難易度や自身の得意不得意に合わせて復習に強弱をつけることを意識しました。初めは、1周を完璧に読み込むのに多くの時間を要しましたが、継続するにつれて次第に理解が深まるとともに、用語に慣れるこ

ともでき、復習の間隔を短くすることができました。始めは範囲の広さに困惑し、勉強の仕方に戸惑いました。だからこそ、まずは机に向かい、学習時間を増やすことが大切であると感じました。

公認会計士短答式試験を合格するまでの期間、家族や友人から多くの面で支えてもらいました。家族や友人等感謝するとともに、恩返しをするためにも、残りの学生としての期間も公認会計士論文式試験の合格に向けて努力していきたいです。

『第51回全日本大学ローイング選手権大会 女子ペア 優勝』

経済学部 4 回生 鉢藤 蓮



私は、第51回全日本大学ローイング選手権大会(インカレ)の女子ペア種目で優勝しました。これは100周年を迎えた部の歴史上、男女合わせても初の結果でした。

私たちがインカレで優勝できたのは、チーム全体で目標を共有し、日々の練習の量質ともに高く保ち続けることができたからです。

前年も女子ペア種目でインカレに出場しましたが、決勝には一步届かず順位決定にまわりました。悔しい思いをしましたが、それと同時に自分たちの全国での立ち位置、トップとの差など現状を把握することができ、その後普段の練習に戻ってから高いモチベーションを保ち練習に打ち込むことができました。

1年という限られた期間で経験や体格の差を埋める必要がありました。が、日々の練習に加え、OBOGの先輩方のご支援によりニュージーランド短期留学や全日本選手権を経験することができ、技術面体力面ともに大きく成長することができました。

今後はOGとして、自分が経験させてもらい、学んできたことを部に還元し、より大きく強いチームづくりに貢献していきたいと考えています。

編集後記

後援会だよりは次のURL・QRコードでもご覧いただけます。

<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/supporters/31/>



後援会だよりの記事についての感想や要望、後援会に対する要望、ご意見等を左記の受付フォームより聞かせください。

<https://forms.office.com/r/m83b4y1XDM>

